

今月も、講師がかつて経験したケースをシェアしながら考えて行きます。

ホメオパシーの基本は、病んだ人の「症状の全体像」を観て行くことです。  
全体像を捉えるには、その人の病を個別化して捉えて行く(統合)ことが必須です。  
今回は、統合すると同時に、「SRP」にも注目して、考えてみましょう。

#### ◆オルガノン § 153・154(要約)

§ 153 SRP: 奇妙な、特有の、異常な、まれな、特徴的症状

SRP だけに目を向けても良い。ありふれた症状は注目には値しない。特徴的な症状に注目せよ！

§ 154 SRP が多く合致するなら、それは最適なレメディといえる。

#### ◆ケース学習の具体的な手順の再確認

ケース学習での授業の順序は、以下のように進めます。

1. まず、ケースを一読して、ケースの①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点(症状)をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。
4. これらを元に、「前分析」を試みる。
  - ②健康度(0～10)
  - ③予後(良いレメディがある時／良いレメディがない時)は、どうなるか？
  - ④救急性(急性か慢性か～救急性があれば、そこから始める)
  - ⑤治癒を妨げているものは？
  - ⑥親和性(部位)
  - ⑦マヤズム傾向(Psora Sycosis Syphilis Cancer TB)
  - ⑧全体性(レメディはいくつ必要になるか？)
  - ⑨バイタリティー(0～10)
5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」(病の核心)をとらえる。
6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、Rep.する。
7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。

では、始めましょう！